

全体的な模様は、白生地の木綿で、幅広い布を切り抜いて衣服につけていきます。大きいモシウ(渦巻模様)や、刺しゅうに注目です。



切り抜いた布が模様になる衣服

木綿衣

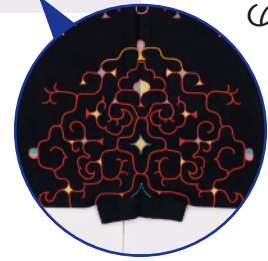
木綿衣

テープ状の布が模様になる衣服



直線や曲線においた細いテープ状の布と刺しゅうで模様を表した衣服です。模様には白・赤・黒の無地の木綿や、染めたもの、さらに絹やウールなどさまざまな素材の布が使われています。

④谷折リ



北海道のアイヌ民族は白糸と赤糸等での刺しゅうや、地方により色糸で刺しゅうを施す場合があります。



糸だけで模様になる衣服

木綿衣

③キトリ

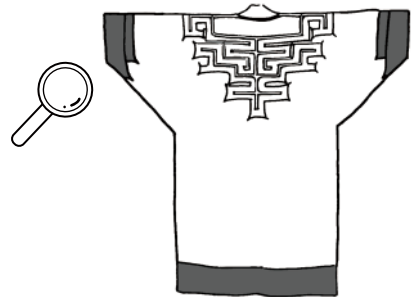
④谷折リ



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

タンペヘマンタ
アン? (アミア)
これなあに? (衣服編)

アイヌ民族の衣服には様々な種類があります。素材や模様注目してみましょう。



※18世紀以降の、素材から衣服に仕立て、刺しゅうを施したものについて解説します。

写真資料はすべて国立アイヌ民族博物館蔵

これに対し、樺太のアイヌ民族は、様々な色の糸で刺しゅうを施す場合があります。

①山折リ

イロクサの草の茎からつくった糸で織られた衣服で、アイヌ語で「白いもの」を意味します。樺太のアイヌ民族のトララペにはさまざまな色糸で刺しゅうされ、背中や肩に飾り布がつけられたものもあります。



トララペ

草皮衣

③キトリ

①山折リ

アイヌ民族の衣服と素材

衣服の素材には、居住地周辺で手に入る素材(自製の素材)と交易や労働の対価として入手した素材(外来の素材)があります。

自製の素材で作る衣服には、動物の毛皮を使った獣皮衣(陸や海の動物の毛皮)・魚皮衣(サケ等の皮)・鳥羽衣(エトピリカ等の毛皮)があります。また、木の内皮を使用した樹皮衣や草の繊維を使用した草皮衣もあります。

外来の素材で作る衣服には、他民族より入手した木綿等で衣服を作り、刺しゅうを施したものや、本州や中国等で着ていた衣服があります。

おもにオヒョウの木やシナノキの内皮でつくる衣服です。温泉や沼などにつけてやわらかくした繊維を加工し、よりをかけて糸玉にした後、織り機で反物をつくります。それを衣服に仕立て、刺しゅうを入れたものです。



アットウシ

樹皮衣

②山折リ

④谷折リ

④谷折リ

衣服の呼び方について

アイヌの衣服文化では、アイヌ語で「アットウシ」や「ルウンペ」などと表現することがあります。

ただし、衣服の種類とアイヌ語の名前が地域によっては一致しないことがあります。そのため当館では、アイヌ語表記を使用せず、「素材」で区別して表記しています。

衣服の展示について

当館では、現在、計9点の衣服を展示しています。保存のため、文書資料と同じく、衣服も2ヶ月に1回、展示する資料を変えています。